

令和6年中の交通事故概況

減少傾向を維持するも依然厳しい状況

京都府警察本部交通部交通企画課

はじめに

交通事故統計は、全国統一の基準により実施され、交通事故防止対策を推進する上での基礎資料として活用されています。

この度、令和6年中の交通事故の状況を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

1 京都府内の交通事故発生状況

令和6年中の京都府内における交通事故の発生状況は、

- ・発生件数……………3,745件
- ・死者数……………52人
- ・負傷者数……………4,233人

で、発生件数、死者数、負傷者数ともに前年より減少し、また、発生件数、負傷者数は統計記録が残る昭和41年以降最小となりました。

しかしながら、65歳以上の高齢者が当事者となる交通事故の割合は、近年高原状態が続いており、自転車及び歩行者が関係する事故も増加するなど交通情勢は依然として厳しい状況にあります。

2 交通事故の年次別発生推移

令和6年中の京都府内の交通事故による年間の死者数を統計データが残る過去と比較すると、ピーク時の昭和47年、48年（いずれも360人）に比

べ85.6%減少し、発生件数にあっても、ピーク時の昭和44年（2万5,771件）に比べ、85.5%減少しています。

また、自動車の保有台数は、発生件数が最も多かった昭和44年の約36万台に対し、約134万台で約3.7倍の増加となっていますが、自動車千台当たりの交通事故発生件数は、昭和44年の71.4件に対し、2.8件まで減少しています。

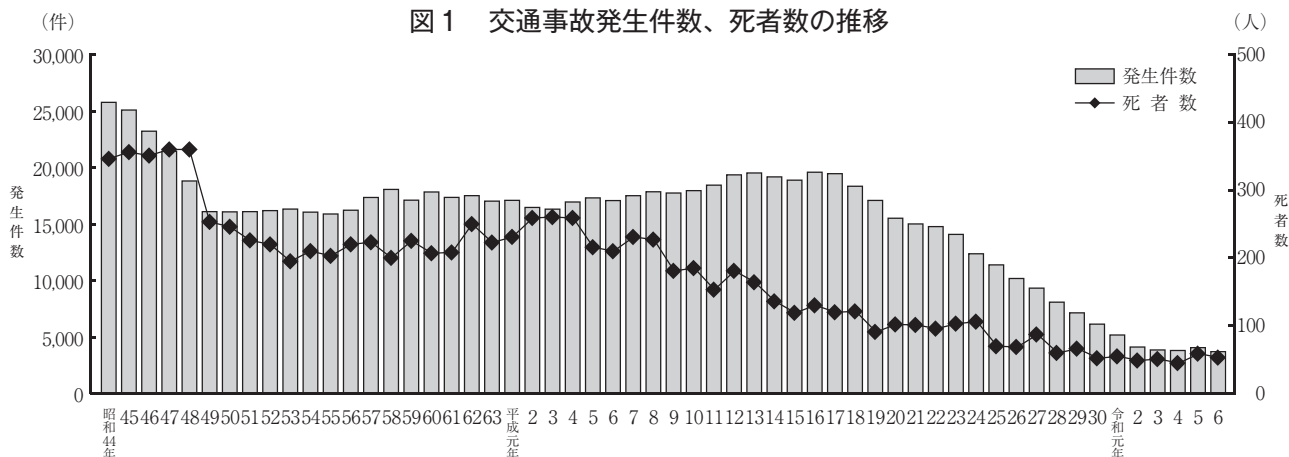
表1 各項目最多年と令和6年との比較

区 分	発生件数 (件)	死者数(人)	負傷者数 (人)
昭和44年	25,771	346	35,504
昭和48年	18,812	360	25,542
令和6年	3,745	52	4,233
増減対比	△22,026	△308	△31,271
増減率(%)	△85.5	△85.6	△88.1

(昭和44年比) (昭和48年比) (昭和44年比)

令和6年は、発生傾向に対して交通街頭活動を適正配分したほか、自転車やモビリティへの対策の強化、高齢者への安全教育の推進など、各種対策を効果的に推進したことが総量の抑止につながったと考えています。

図1 交通事故発生件数、死者数の推移



3 交通事故の地域別発生状況

令和6年中の京都府内の交通事故3,745件中、2,288件（61.1%）が京都市内で発生しています。

表2 地域別交通事故発生件数

区 分	発生件数（件）	割合（%）
京都市域	2,288	61.1
山城地域	1,045	27.9
南丹地域	180	4.8
中丹地域	161	4.3
丹後地域	71	1.9
総 数	3,745	100.0

（地域区分）

- ・山城地域：宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、木津川市、乙訓郡、久世郡、綴喜郡、相楽郡
- ・南丹地域：亀岡市、南丹市、船井郡
- ・中丹地域：福知山市、舞鶴市、綾部市
- ・丹後地域：宮津市、京丹後市、与謝郡

交通量が多い主要国道では、国道1号が206件、国道9号が141件、国道24号が156件、国道171号が84件となっています。

一方、交通死亡事故は、必ずしも主要国道で発生している訳ではなく、府道や市道など身近な道路で発生していると言えます。

表3 主要国道の発生状況

区 分	発生件数（件）	死者数（人）	負傷者数（人）
国道1号	206	1	243
国道9号	141	4	180
国道24号	156	1	192
国道171号	84	1	98

4 交通事故の類型、違反内容

■ 交通事故の類型別発生状況

交通事故は大別すると「人対車両」、「車両相互」、「車両単独」及び「列車」の4つに分類され、「車両相互」が全体の約8割を占めています。令和6年中の発生状況は、次表のとおりです。

表4 交通事故類型別状況

区 分	発生件数（件）	死者数（人）	負傷者数（人）
人対車両	622	18	614
車両相互	3,009	15	3,500
車両単独	112	17	119
列 車	2	2	-
総 数	3,745	52	4,233

類型別に見ると、人対車両では「道路横断中」の事故が361件で最も多く、死者数8人、負傷者数359人となっています。車両相互事故では、「出会い頭」が934件で最も多く、死者数4人、負傷者数1,013人、次いで「追突」が792件で死者数3人、負傷者数1,064人となっています。

表5 事故類型別状況

区 分	件数（件）	死者数（人）	負傷者数（人）
人 対 車 両 小 計	622	18	614
横断歩道横断中	193	2	195
そ の 他 横 断 中	168	6	164
人対車両その他	261	10	255
車 両 相 互 小 計	3,009	15	3,500
正 面 衝 突	74	3	106
追 突	792	3	1,064
出 会 い 頭	934	4	1,013
右 折 時	421	3	446
左 折 時	265	0	274
車両相互その他	523	2	597
車 両 単 独 小 計	112	17	119
工作物（電柱等）	40	10	47
車両単独その他	72	7	72
列 車	2	2	-
総 数	3,745	52	4,233

■ 事故当事者の違反内容

第1当事者の交通事故原因の主な法令違反は次表のとおりです。

表6 第1当事者の主な法令違反

区 分	件数（件）
前方不注意（脇見等）	379
前方不注意（考え事等）	142
安全不確認 前方・左右	167
安全不確認 後方	123
交差点安全進行義務違反	86
動静不注視	173
ハンドル・ブレーキ操作不適	204
歩行者妨害等	188
指定場所一時不停止等	398
信号無視	126

5 交通事故の主な特徴

令和6年中の京都府内の交通事故の特徴を

- ・高齢者
- ・こども
- ・自転車
- ・歩行者
- ・飲酒運転

の事故別に見ると次のとおりです。

■ 高齢者（65歳以上）の事故

高齢者（65歳以上）の交通事故死者数は29人と、昨年より6人減少しましたが、依然として年間の死者数（52人）の55.8%を占めています。

高齢死者の事故時の状態は次のとおりです。

- ・歩行中等……………15人
- ・自動車乗車中……………8人
- ・原付車乗車中……………3人
- ・自転車乗車中……………2人
- ・二輪車乗車中……………1人

高齢死者29人の主な事故原因（第1当事者）を見ると「前方不注視」が9件で最も多く、次いで「運転操作ミス」が8件、「安全不確認」が4件、「交差点関連違反」、「歩行者妨害」、「歩行者違反」が各2件、「信号無視」が1件となっています。

（注：件数については1件2人の死亡事故を含むため、28件29人となります。）

高齢ドライバー（原動機付自転車以上）が第1当事者となった事故は、898件発生し、前年比87件の減少となりましたが、全事故に占める割合は23.9%と過去10年の中で、令和5年の24.2%に次いで、高い傾向が続いています。

図2 高齢者（65歳以上）の死者・負傷者数

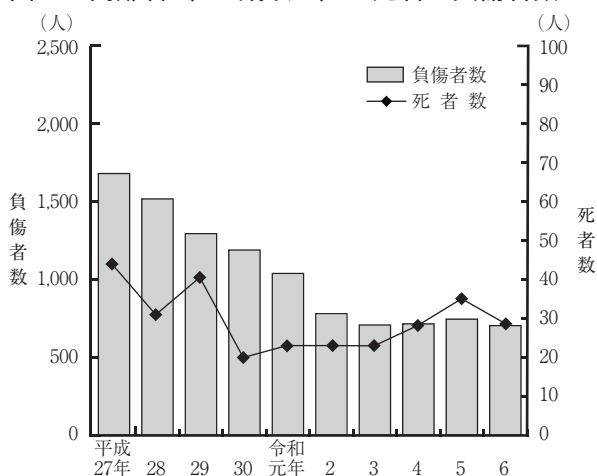
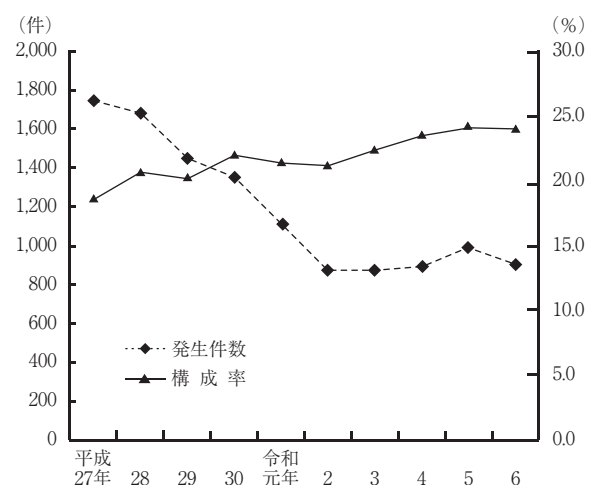


図3 高齢ドライバーが第1当事者の事故件数

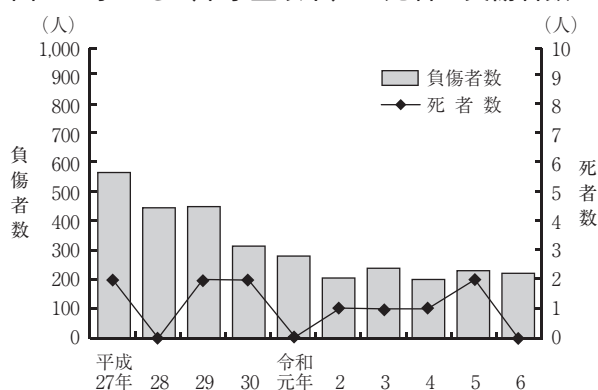


■ こどもの事故

こども（中学生以下）の交通事故による負傷者数は219人（死者なし）で、令和5年は230人（うち死者2人）でしたが、減少しました。

負傷者219人について、事故発生時の状態を見ると、車両乗車中が163人でそのうち自転車運転中は96人、車両に同乗中は67人、歩行中等が55人、その他1人となっています。

図4 子ども（中学生以下）の死者・負傷者数



■ 自転車の事故

自転車に関する交通事故の発生件数は934件（前年比－10件）、死者数は3人（前年比－4人）、負傷者数は895人（前年比－13人）となっています。

発生件数は昨年と比べて減少したものの、全交通事故に占める割合（構成率）は、24.9%と、令和5年の23.2%より増加しています。

図5 自転車事故の発生件数の推移

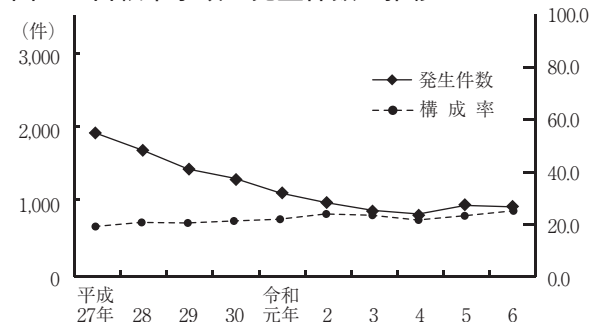
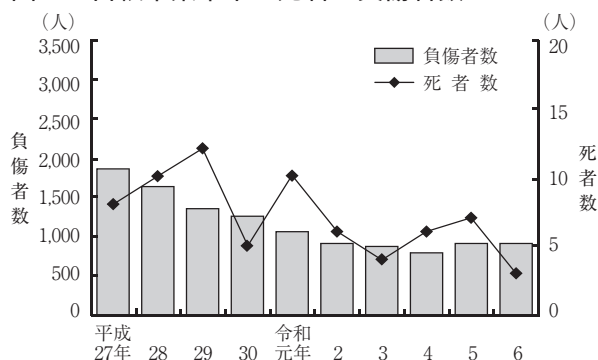


図6 自転車乗車中の死者・負傷者数



自転車に関係する事故の主な事故類型は、多い順から

- ・ 出会い頭事故……………468件
- ・ 右折左折時……………251件
- ・ 追越追抜時…………… 46件

となっており、時間帯別では

- ・ 8～10時……………184件
- ・ 16～18時……………160件
- ・ 10～12時……………108件

の順に発生しています。

地域別では、

- ・ 京都市域……………636件
- ・ 山城地域……………220件
- ・ 南丹地域…………… 37件
- ・ 中丹地域…………… 31件
- ・ 丹後地域…………… 10件

で京都市域が全体の68.1%を占めています。

■ 歩行者の事故

歩行者の事故は624件発生し、死者数は20人、負傷者数は619人で、全死者総数（52人）のうち歩行者の死者は38.5%を占めています。

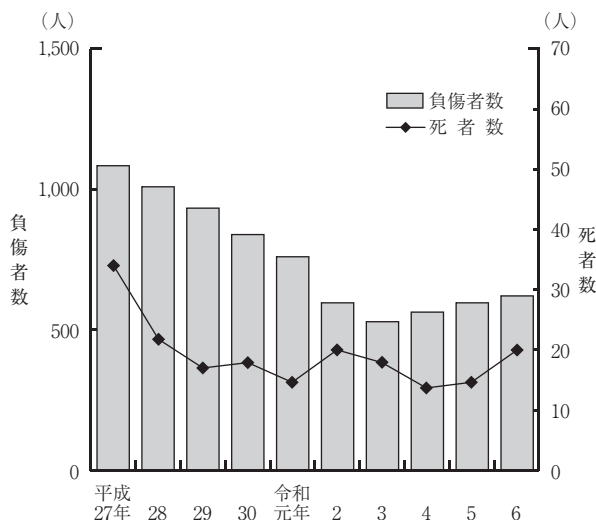
歩行者の相手方種別等の発生件数は、

- ・ 自動車……………496件
- ・ 自動二輪車…………… 31件
- ・ 原付車…………… 31件
- ・ 自転車…………… 46件
- ・ 列車…………… 2件
- ・ 特定小型原動機付自転車…………… 1件
- ・ 相手不明…………… 17件

（注：相手不明とは、ひき逃げ等で種別が不明のことをいいます。）

となっており、対自動車が全体の79.5%を占めています。

図7 歩行者の死者・負傷者数



令和6年の特徴は、横断歩道上での事故が193件（前年比+12件）と増加しました。

193件の内訳は、信号機のある横断歩道での事故は131件（前年比+28件）、信号機のない横断歩道での事故は62件（前年比-16件）となっています。

歩行者の死者数は20人で、年代別では

- ・ 「80歳以上」…………… 9人
- ・ 「70歳代」…………… 3人
- ・ 「60歳代」…………… 3人
- ・ 「50歳代」…………… 3人
- ・ 「40歳」…………… 2人

となっています。

■ 飲酒運転の事故

第1当事者が原動機付自転車以上の車両を運転中の飲酒事故は24件発生し、死者数は3人、負傷者数は26人となっています。

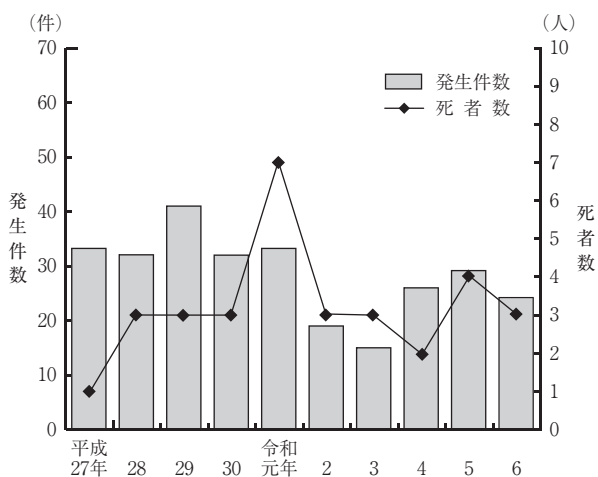
地域別では、

- ・ 京都市域…………… 13件
- ・ 山城地域…………… 7件
- ・ 南丹地域…………… 2件
- ・ 中丹地域…………… 1件
- ・ 丹後地域…………… 1件

で京都市域と山城地域で全体の83.3%を占めています。

（注：飲酒運転の件数、人数は、酒酔い運転及び政令数値以上の酒気帯び運転の合計で示しています。）

図8 飲酒事故の発生件数と死者数



▼「第1当事者」とは、最初に交通事故に関与した車両等（列車を含む）の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者をいい、過失が同程度の場合には人身損傷程度が軽い者をいう。

▼「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。

第1表 市区町村別交通事故発生状況（令和6年中）

（単位：件、人）

区 分		発生件数	死亡事故		重傷事故		軽傷事故	
			件 数	人 員	件 数	人 員	件 数	人 員
総 数		3,745	51	52	779	806	2,915	3,427
京都市域	北 区	159	3	3	38	38	118	136
	上 京 区	104	1	1	30	31	73	89
	左 京 区	174	4	4	45	46	125	139
	中 京 区	176	-	-	30	31	146	162
	東 山 区	125	1	1	23	23	101	129
	山 科 区	227	-	-	44	45	183	228
	下 京 区	168	3	3	34	34	131	147
	南 区	258	2	2	45	46	211	253
	右 京 区	248	1	1	56	58	191	224
	西 京 区	136	3	3	29	32	104	115
	伏 見 区	513	3	3	103	106	407	469
	京都市計	2,288	21	21	477	490	1,790	2,091
山城地域	宇 治 市	235	2	2	57	59	176	202
	城 陽 市	93	2	2	18	18	73	86
	向 日 市	110	1	1	19	19	90	101
	長岡京市	80	-	-	18	20	62	69
	八 幡 市	159	2	2	32	32	125	140
	京田辺市	87	1	1	19	19	67	78
	木津川市	93	-	-	16	17	77	96
	大山崎町	32	-	-	3	4	29	34
	久御山町	86	4	4	16	16	66	83
	井 手 町	4	-	-	1	1	3	3
	宇治田原町	17	-	-	4	4	13	16
	笠 置 町	5	-	-	3	3	2	3
	和 束 町	2	-	-	2	2	-	-
	精 華 町	38	-	-	11	12	27	28
	南山城村	4	-	-	-	-	4	5
	山 城 計	1,045	12	12	219	226	814	944
南丹地域	亀 岡 市	132	4	4	27	29	101	128
	南 丹 市	36	3	3	10	11	23	27
	京丹波町	12	1	1	3	3	8	14
	南 丹 計	180	8	8	40	43	132	169
中丹地域	福知山市	74	2	2	19	19	53	64
	舞 鶴 市	59	2	2	8	10	49	56
	綾 部 市	28	3	3	2	2	23	27
	中 丹 計	161	7	7	29	31	125	147
丹後地域	宮 津 市	14	2	3	2	2	10	13
	京丹後市	49	1	1	11	13	37	51
	与謝野町	8	-	-	1	1	7	12
	伊 根 町	-	-	-	-	-	-	-
	丹 後 計	71	3	4	14	16	54	76

第2表 年次別交通事故発生状況

(単位：件、人)

区分 年次	交 通 事 故					自 動 車 保有台数	自動車 千台当 りの発 生件数	人 口	人口 10 万人当たり	
	発生件数	うち死亡 事故件数	死者数	負傷者数	うち 重傷者数				死 者 数	負 傷 者 数
昭和 40 年	12,977	289	304	15,714	…	191,074	67.9	2,102,808	14.5	747.3
41	14,833	317	332	18,600	…	221,831	66.9	2,125,053	15.6	875.3
42	16,705	278	296	21,832	…	261,425	63.9	2,160,488	13.7	1,010.5
43	21,227	294	309	28,786	…	307,377	69.1	2,193,535	14.1	1,312.3
44	25,771	337	346	35,504	…	360,911	71.4	2,219,118	15.6	1,599.9
45	25,066	331	356	35,122	…	409,784	61.2	2,250,087	15.8	1,560.9
46	23,222	340	351	32,155	2,834	454,795	51.1	2,280,682	15.4	1,409.9
47	21,455	341	360	29,407	2,640	502,458	42.7	2,321,777	15.5	1,266.6
48	18,812	341	360	25,542	2,458	546,900	34.4	2,362,094	15.2	1,081.3
49	16,105	242	253	21,572	2,239	567,999	28.4	2,394,209	10.6	901.0
50	16,082	224	246	21,252	1,635	583,771	27.5	2,424,856	10.1	876.4
51	16,100	216	226	21,042	1,579	612,420	26.3	2,452,193	9.2	858.1
52	16,191	216	220	21,096	1,570	641,592	25.2	2,475,558	8.9	852.2
53	16,328	184	195	21,232	1,334	673,371	24.2	2,495,922	7.8	850.7
54	16,058	201	210	20,464	1,407	705,298	22.8	2,512,566	8.4	814.5
55	15,890	195	203	20,462	1,923	736,399	21.6	2,527,330	8.0	809.6
56	16,229	203	220	20,829	2,147	768,247	21.1	2,539,192	8.7	820.3
57	17,357	213	223	22,111	2,418	803,548	21.6	2,553,097	8.7	866.0
58	18,065	190	200	23,298	2,486	839,889	21.5	2,567,529	7.8	907.4
59	17,117	211	225	21,895	2,286	874,869	19.6	2,577,849	8.7	849.4
60	17,839	202	207	22,604	2,480	908,550	19.6	2,586,574	8.0	873.9
61	17,360	199	208	22,137	2,407	948,451	18.3	2,594,420	8.0	853.3
62	17,514	245	250	22,277	2,596	984,290	17.8	2,599,876	9.6	856.8
63	17,029	213	223	21,546	2,541	1,030,888	16.5	2,603,742	8.6	827.5
平成元年	17,100	222	231	22,276	2,661	1,083,997	15.8	2,605,810	8.9	854.9
2	16,473	248	259	21,032	2,826	1,127,021	14.6	2,602,460	10.0	808.2
3	16,320	250	260	21,297	2,741	1,158,023	14.1	2,606,196	10.0	817.2
4	16,955	242	259	21,471	2,994	1,175,768	14.4	2,612,619	9.9	821.8
5	17,315	206	216	22,016	3,021	1,199,095	14.4	2,614,955	8.3	841.9
6	17,080	200	210	21,597	2,815	1,226,232	13.9	2,619,007	8.0	824.6
7	17,515	216	231	21,961	2,816	1,258,193	13.9	2,629,592	8.8	835.1
8	17,860	215	227	22,273	2,724	1,289,403	13.9	2,633,334	8.6	845.8
9	17,748	175	181	21,927	2,657	1,315,122	13.5	2,636,750	6.9	831.6
10	17,957	177	185	22,021	2,571	1,324,790	13.6	2,641,787	7.0	833.6
11	18,447	149	153	22,787	2,417	1,334,441	13.8	2,643,580	5.8	862.0
12	19,360	174	181	23,971	2,518	1,344,972	14.4	2,644,391	6.8	906.5
13	19,523	159	164	24,311	2,634	1,350,132	14.5	2,646,143	6.2	918.7
14	19,174	130	136	23,570	2,566	1,352,434	14.2	2,646,555	5.1	890.6
15	18,884	118	119	23,129	2,385	1,349,689	14.0	2,647,889	4.5	873.5
16	19,590	129	130	24,162	2,485	1,359,708	14.4	2,648,245	4.9	912.4
17	19,460	117	120	23,747	2,412	1,379,483	14.1	2,647,660	4.5	896.9
18	18,346	118	121	22,374	2,382	1,384,894	13.2	2,644,075	4.6	846.2
19	17,094	90	91	20,655	2,161	1,360,903	12.6	2,638,510	3.4	782.8
20	15,517	99	102	18,565	2,039	1,351,648	11.5	2,635,134	3.9	704.5
21	15,009	100	101	17,972	1,914	1,339,734	11.2	2,631,441	3.8	683.0
22	14,775	95	96	17,813	1,357	1,335,232	11.1	2,636,092	3.6	675.7
23	14,087	103	103	17,065	1,245	1,332,132	10.6	2,632,496	3.9	648.2
24	12,371	96	106	15,088	1,444	1,334,766	9.3	2,627,313	4.0	574.3
25	11,387	67	70	13,801	1,530	1,337,012	8.5	2,620,210	2.7	526.7
26	10,185	67	69	12,387	1,526	1,343,090	7.6	2,613,594	2.6	473.9
27	9,328	87	87	11,262	1,345	1,342,212	6.9	2,610,353	3.3	431.4
28	8,087	60	60	9,678	1,277	1,343,233	6.0	2,605,731	2.3	371.4
29	7,145	64	66	8,530	1,237	1,340,844	5.3	2,599,313	2.5	328.2
30	6,142	51	52	7,258	1,161	1,342,750	4.6	2,591,779	2.0	280.0
令和元年	5,183	55	55	6,071	991	1,342,021	3.9	2,583,140	2.1	235.0
2	4,118	49	49	4,699	892	1,346,801	3.1	2,578,087	1.9	182.3
3	3,859	50	51	4,408	818	1,346,183	2.9	2,561,358	2.0	172.1
4	3,810	43	45	4,413	748	1,345,780	2.8	2,550,404	1.8	173.0
5	4,067	58	59	4,668	819	1,347,517	3.0	2,536,995	2.3	184.0
6	3,745	51	52	4,233	806	1,348,653	2.8	2,521,262	2.1	167.9

注：人口は各年 10 月 1 日現在の推計値、国勢調査年は国勢調査人口
令和 6 年の自動車保有台数は令和 6 年 11 月末現在